

立岩地区タウンミーティング(要約)

平成26年5月24日(土曜日)

【市長】 皆さんこんにちは。今日は土曜日の午後です。いろいろとご予定もあったのではないかと思うんですけども、このように大勢の方がお集まりをいただきまして、本当にありがとうございます。この立岩地区のタウンミーティングの開催にあたりましては、立岩地区区長会会長をはじめ、役員の皆様のお力添えをいただきました。本当にありがとうございます。この立岩でのタウンミーティングを開催するのは、2年7カ月ぶりの2回目になります。タウンミーティングは私が市長に就任をさせていただいてから始めさせていただきました。松山には旧の松山市、旧の北条市、旧の中島町を合わせて41の地区があります。どっちか楽かという市役所で待っているほうが楽です。でも、そうじゃなくて、我々が各地区に出向かせていただいて各地区の魅力を教えていただく、また、各地区で困りごととか課題もあると思いますので、そういったものを聞かせていただいて、できることからできるだけ早く市政に反映していくということで、タウンミーティングを始めさせていただきました。この松山市のタウンミーティングには特徴がありまして、ここで出た質問に対してはできるだけここでお答えをして帰りますけれども、中には国と絡む案件とか県と絡む案件とか財政的な問題があるものは、いいかげんな返事をして帰るわけにはいけませんので、そういったものはいったん持ち帰らせていただいて1カ月を目途に必ず地区にお答えを返すという「やりっぱなしにしない」「聞きっぱなしにしない」というタウンミーティングをしております。我々から出ていくのが1つ目の特徴で、「やりっぱなしにしない」「聞きっぱなしにしない」のが2つ目の松山市版のタウンミーティングの特徴でございます。今日は小学校の皆さんも来られておりますけれども、90分間という長い時間になります。やはり緊張されて肩ひじ張っていると疲れてしまうと思いますので、あまり緊張なされずにぎくばらんな意見交換ができれば、よりよい立岩に向けての意見交換ができればと思いますので、今日はどうぞよろしく願いいたします。

【男性】 私は、儀式の区長をしております。よろしく申し上げます。儀式では、今から30年前に地域の子どもに安心して遊べる遊び場をつくってやろうということで、今の立岩公民館長を中心に当時の若者たちが集まって、寄付を募ったり、色んな補助金や社会福祉協議会に遊具をもらったりして、個人の農地を借り受けて公園を整備しました。地区の人総出の奉仕作業や色んな知恵を出し合って、まさに地域の力でつくり上げた公園だ

と自負しております。今では、子どもの遊び場としてはもちろん、里帰りしてきた親子たちの遊び場、また、地域で行っている運動会や夏祭りの会場、近隣の高齢者のクロッケーの場所として活発に利用されている状況です。まさに地域のコミュニティづくりの核となっている場所です。その公園ですが、造成も30年を経過して防球ネットの支柱や網や照明灯等の設備の老朽化が激しくなっています。造成当時は55戸あった儀式的世帯数ですが、今は40戸を切るなど過疎高齢化の著しい中で、この公園を管理するのはかなり大きな負担となっています。以前、公園緑地課へ老朽化した施設の整備について可能性をお伺いしたんですが、市の土地でない民地の儀式公園のような公園は、市の経費を使って整備することはできないというご意見でした。先ほど申し上げましたように、十分な公園としての機能を発揮できない状態になっていますので、公園として用地の買収や施設の補修等に補助を受ける方法はないのか、コミュニティ施設として何か工事に対する補助制度はないのかをお伺いしたいと思います。儀式公園の造成は、地域の課題を見つけ出して自らが取り組むという、まさに松山市が進めているまちづくりの理念に沿った形の営みではないかと思っております。松山市ではまちづくり協議会の設立を目指しておられますが、地域で頑張っているコミュニティに援助の手を差し伸べるのを育成してこそ、市民総参加のまちづくりが実現するんじゃないかと思うんですが、いかがでしょうか。

【市長】 今、ご紹介いただきました儀式公園は素晴らしい場所だと思います。30年前は行政が何でもやってくれて当たり前という時代に、地元の方がいろいろと動かれて公園ができた。知恵と工夫も凝らされて、社会福祉協議会からとかも考えられている。素晴らしい取り組みだと敬意を表したいと思います。確かに敷地や施設は松山市の所有ではないので、松山市が直接、整備や補修を行うことができないのですが、やり方はあります。都市政策課長から話してもらおうと思いましたが、使えそうなものがあるんですよね。

【都市政策課長】 都市政策課でございます。よろしくお願いたします。儀式公園につきましてご意見いただきましたけれども、実は私も先日、見させていただきまして、ナイター設備とかトイレも整備されておりました。手づくりの遊具もありまして、皆さんの強い思いも伝わってまいりました。先ほど市長も言いましたように、直接的な整備は市ではできないんですけれども、このような地域の自主的な取り組みなどに対して「松山市美しい街並みと賑わい創出事業補助金」がございまして、この制度を利用されましたら整備も可能になるかと思えます。松山市の所管が都市デザイン課に

なり、ホームページにも掲載しております。この後、ご説明させていただきますので、ぜひともそういう制度をご利用になったらと思います。

【男性】 中山間地域のまちづくりというテーマですけど、市長さんの地元学に基づいた、「たからみがき」のまちづくりは非常に素晴らしいと思っています。鹿島を中心としたレトロタウン構想の発展をこれから楽しみにしています。ところで、旧北条市といえば、もう1つ大きな宝の高縄山があると思うんです。高縄山を抱える立岩も、もっと目を向けていただきたい。立岩地区ですけれども、人口が1,000人を切りました。最盛期は3,300人ほどあったといいます。3分の1以下です。前回の国勢調査のときは高齢化率が48%を超えて、来年たぶん国勢調査があると思うので、そのときはっきりすると思うんですけど、50%を超えて限界集落に入ってしまった。将来的に非常に難しい点を持っている地域だと思っています。今までであれば個々の問題にそれぞれ取り組んでいけば地域を守っていくことができたと思うんですけど、これからはそれだけではなくて、地域をしっかりとらえてどう地域をもっていけば立岩を維持していけるかを、きちんと調査なり検討して計画を立てていく必要があると思うんです。松山市ではまちづくり協議会がございすけども、ちょっと生意気な言い方になりますけども、立岩地区は元来色んな活動を活発にしてきた地域でありまして、今、色んなところでまちづくり協議会でやられていることは、既にもう立岩では十分やってきたつもりなので、そういう中途半端なボランティアでは、これから困難な面を迎える立岩の将来をきちんと計画することはできないと思うので、総務省が行っている集落支援員制度があると思うんですけども、それをぜひ取り入れていただいて、立岩にその集落支援員を設置していただくことをお願いしたいと思います。よろしくお願ひいたします。

【市長】 私が思いますのは、ほかの地区のまちづくりも見させていただいて、また、前の仕事のときに松山市だけではなくて県内・四国・中国・九州へ、たまたま前の仕事でアナウンサーとして各地へ行かせていただいて、いいまちづくりを見させていただいたのが、今の財産になっているなと思っています。自分の知識からすると、まず貫之山のツツジ祭りは素晴らしい。先ほど、儀式の公園のことも出ましたけども、40年前から皆さんで植えられて維持する。掃除をしないと、お世話しないとあんなにきれいに咲かないです。そして、今もお祭りとして人が集まる。毎年、おかげさまで来ることができているので、来ていて思うんですけども、車はずっと続いていますよね。ずっと立岩まで上がって来られている。素晴らしいにぎわいの祭りになっていると思います。色んなやり方があると思

うんですけども、これから高齢化社会を迎える中で、花を活用したまちづくりはあるだろうなと思っています。花は比較的軽いですから、軽作業である程度ですけど放っておいても咲いてくれる。例えば、川沿いにあたりするんですけど、春は菜の花だったり、南予に行きますとチューリップ街道みたいな形で、ずっと道端にチューリップが植わっているところがあります。地区で夏になると、例えばひまわりをいっぱい咲かせてそれで人を集めてみるとか、秋はコスモスを咲かせてみるとか、花のまちづくりはあるなど。「いやいや、うちはツツジで手一杯じゃけん、みんながかかわっとるけん、ツツジ祭り以外はもうできんなあ」と言われるのかもしれないですし、余力があってほかの場所でやれるなということがあるのかもしれない。また、1月のかけめしとか弓祈禱はどこでもはない話なので、まちを盛り上げていく手段として、大いにあるのではないのかと感じているところです。また、秋祭りの猪木の「大魔」ですけれども、あれはまさに子宝といい、これから子どもたち大事な存在になると思うんですけれども、抱いてもらった子どもたちが元気になるという願いもありますけれども、そういう「大魔」のときに来てもらうのも、またやり方としてあるんじゃないかと思います。ですから、私が申し上げたいのは、立岩には宝はいっぱいあるということです。これ以上何かを逆に広げるのじゃなくて、今ある宝を生かしていくのが立岩のまちづくりのいい形じゃないかなと、私の今までの知識と経験からすると思います。

【市民部長】 市民部長の片山です。よろしく申し上げます。ご質問ありがとうございます。全国的にどこの地域も人口減少を迎えていると認識しております。そこで、松山市としては、住民主体のまちづくりである、まちづくり協議会を進めております。まちづくり協議会は地域の皆さんが主体となって、行政と協働で地域の課題解決や魅力を生かしたまちづくりを行うということで、各地で進めております。立岩地区では、まちづくり協議会は設立されていないと思いますが、仮に協議会が設立されるという話になりましたら、担当から説明させていただきたいと思います。そして北条地域は25年の3月に北条地域全体の持続的な発展を目的に風早レトロタウン構想を策定して、地域の活性化に取り組んでまいりたいと考えております。そして、先ほどの国の集落支援員制度について、おそらく言われているのは「地域おこし協力隊」じゃないですか？同じ内容ですか？

【男性】 集落支援員を総務省が経費を負担して地域に派遣、各自治体から設置の要望を出して支援員を設置して、地域を点検とか先ほど市長さんが言われたような宝さがし、住人の意思とか調査、検討を行政と協力して行って、それから地域の中で話し合いを持ち、これから地域をどう発展さ

せていこうかということをする支援員を設置できるという総務省の制度があるんです。

【市長】 ありがとうございます。これは、ぜひとも皆さんに知っていただきたいと思っておりますので、文書にして皆様にこういう制度があるとお知らせできたらと思っておりますので、いったん持ち帰らせていただいたらと思っております。

【市民部長】 私も勉強させていただきます。よろしくお願いたします。

【男性】 湯裾地区の区長をしております、よろしくお願いたします。コミュニティ集会所のトイレ工事の関係ですが、コミュニティ集会所は工事費の負担が50%と聞いております。公民館の分館になりますと25%という情報をいただいておりますけれども、戸数が100戸ないということで分館にはなれません。そういった中で、高齢化進んでおりますので洋式じゃないと不便になってくる。また、避難所に集会所がなっておりますので、トイレをきちっとした形にしていないと対応がとりにくいこともありまして、取り組もうと考えておりますけれども、負担金50%となりますと、戸数が我々のところは24戸で負担金が膨大になりますので、もう1回検討し直すということで、要望を取り下げた経緯があります。トイレだけでなく、色んな工事も集会所の場合は、負担金がかなりになるとどうしても住民に負担がかかってくることになりますので、市の負担金をもっと増やしていただくようお願いしたらと思っております。

【市長】 補足で小学生さんにもできるだけわかりやすく話をしようと思っております。ここって立岩公民館よね。松山市はさっき41地区ありますって言ったんやけど、こういう公民館が41あるんです。旧の松山市と旧の北条市でちょっと仕組みが違っていたんです。そういう経緯があったんですけども、松山市が全部お金を出してつくっているのが公民館本館です。地区に1つある。分館・集会所は、松山市全体で現在300カ所ぐらいあります。それは、地域の方にとって非常に身近な存在でもありますので、地域の方にもご負担をいただきながら整備をさせていただいております。それが、大きな流れですけど、旧北条市はやり方が違っていたんですね。

【市民部長】 市民部長の片山です。よろしくお願いたします。まず経緯は、ご存じだと思いますが、改めて説明させていただきたいと思っております。まず北条コミュニティ集会所は、昭和51年ごろから地域コミュニティの活動拠点として、旧北条市が主体となって整備してきたということでございます。建設後の修繕や光熱水費等の維持は、旧北条市と地区の覚書により、各地区に負担していただくこととして、旧の松山市と合併後も同様に取り扱いをしてまいりました。しかし、先ほど言われました、世帯割にしたら

少しずつ高くなってくるのは十分理解はできるんですけど、その負担を軽減するために地区の要望に基づきまして、松山市が修繕を実施してその費用の2分の1を地区に負担していただく緩和する制度を平成23年度に創設しました。

【市長】 旧北条市のときは、建設した後の修繕や光熱水費など維持管理は全部地元でやってくださいとなっていたんですけど、さすがに高齢化してきて人口減少もしてきたので、それはさすがにつらいだろうということで、平成23年度から松山市としてサポートさせていただく仕組みにしたということです。

【市民部長】 こういう集会所建設の経緯や受益者負担、そしてほかの松山市の制度もありますけど、均衡を考えたところ、地元負担していただくことになるかと現時点では思っております。すみませんけれど、よろしくご理解いただきたいと思えます。

【男性】 生活の道路の関係のことですけど、市道の小山田中の川線で昨年度の大雨で土手が崩壊して、すぐ対応にあたっていただいて、直って大変ありがたかったんですけども、原因が側溝に泥が詰まったので、地元としても高齢化で人数が減る中で、年に数回草刈とかして整備しているんですけども、それでもやっぱり追いつかない部分があるので、パトロールみたいなのを松山市で事前に防ぐ形がとれたらいいんじゃないかと思って、今後検討される予定があるかどうかをお伺いしたいです。

【都市政策課長】 都市政策課でございます。市道の維持管理につきましてご提案ありがとうございます。市道の維持管理は、松山市が責任を持ってやるべきことだと考えておりますが、皆さん奉仕活動等で市道の維持管理に協力していただいております。大変ありがとうございます。現在、松山市の道路のパトロールですけども、3台パトロールカーがありまして、毎日、パトロールはしているんですけども、市道が1,800キロ以上ございまして、すぐに発見できない場合もあります。異常がある場合とか、発見していただいた場合には、市役所に連絡いただいたらすぐ対応させていただきたいと思えます。よろしく申し上げます。また、奉仕作業につきましても、できる範囲で続けていただけたらありがたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。

【市長】 防犯灯もですけども、防犯灯は松山市全体で3万灯あります。それを全部松山市が管理をするとすると、やはり気づくのが遅れたり、地元の方々が一番身近にいらっしゃるの、気づいたところで対応するのが一番早いかなと思えます。全部を市でやるのではなくて、地元の方と協力できるところは協力してやっていく。一番いい形をやっていきたいと思うん

ですが、道路で危ないなとか、崩れているというところがありましたら、遠慮なく市役所に連絡してください。それは、国道でも県道でも市道でも関係ありません。もし、国の道であったら私どもから責任を持って言いますし、県の道だったら我々から県に言いますし、市でしたらもちろん我々で対処させていただきます。市役所に電話していただいたら、コールセンターがありますので、「道のことなんだけど」と言ってもらったら担当課につなぎ、すぐに対処させていただきますので、遠慮なく言っていただいたらと思います。よろしくお願ひします。

【小学生】 立岩小学校3年です。僕は貫之山の山道を登りやすい道にしてほしいです。なぜかという、貫之山は学校のすぐそばにあるので、よく虫捕りや自然観察で登ります。それにツツジ祭りでは、色んな人が登ってツツジを見るので、安全で通りやすい道にしてほしいからです。

【市長】 貫之山の道をもう少し険しくなく緩やかな道にしてほしいということでもいいのかなあ。もうちょっと登りやすくということになりますかね。

【市民部長】 市民部長の片山です。どうも質問ありがとうございます。貫之山は先ほど市長からもツツジのお話があったかと思いますが、皆さん美しい花を楽しむことができるということで、本当にありがとうございます。そこで、質問された件ですけど、貫之山の傾斜がきつく山裾から山頂までにかけて続いているという話を聞いたことはあるんですが、確認いたしますと、現在の園内通路を別の場所につけかえたり、広げたり、そして山の形を変えると斜面が崩れるという話がありました。皆さんによって良好に管理されているんですけど、これをつけかえるのは、難しいかなと思っています。自然に恵まれた貫之山を将来に今の形で残していければと思っています。残念ですけど山が崩れたのではどうしようもないので、申しわけないですけど、今のままで、何とか利用していただければと思います。

【男性】 ちょっとすみません。貫之山の道ですが、たぶん子どもさんが言われておるのは、上の山のツツジ園の道路ではなくて、市道から貫之山に上がるまでのコンクリートの道路が急傾斜で、階段でなくコンクリートの打ちっぱなし、極端に言えば45度ぐらいの傾斜があるんですが、そこを何か改良でもという意味もあると思います。

【市長】 補足ありがとうございます。我々、この後3時半でタウンミーティングはいったん終了になりますけれども、現地を確認させていただいてどういうことができるのか、また、なかなか難しいのかというのを現場を確認させてもらいましょうか。せっかく来ているので、現場を確認させ

ていただいて、どういうことができるのかを確認させていただいたらと思います。

【男性】 まず第1点ですけど、高縄山の中腹に大きな林道の建設を願いたい。これは以前に平成4年の仮称ですけれども、防火林道高縄山麓線期成同盟会を立ち上げまして、そして所有者の承諾のもと国・県へ陳情をした経緯があります。それともう1点、広域農道の建設についてですが、農業の振興と都市部との流通体系の構築を図るため、大規模な広域農道の建設をしていただきたい。そして、さらにこの生活基盤の向上を図って、山と農と町と調和のとれた魅力ある都市づくりを進めていただきたい。この2点を申し上げます。

【市長】 はい、わかりました。個別具体的には申し上げられないのですが、林道の話、広域農道の話はなかなか難しいと言わざるを得ないところをご理解いただけたらと思うんですが、こうやって皆様からご要望をいただきますが、もちろん、何もできないというわけではないんです。皆様からお声をいただいて、「よし、これはやるべきだ」となったら優先順位をつけていくんですけれども、市長の人気取りのことから考えると「これ、やってください」と言われて、「はい、わかりました」、「これ、やってください」と言われて、「はい、わかりました」と言えるほうが楽かもしれません。でも、それをやってしまうと、今日は子どもたちも来てくれていますけれども、将来の子どもたちにツケを残すぐらいまで、今、地方公共団体・国も財政はかなり厳しくなってきました。皆さん、税金を払いたくてたまらない人はまずいないと思うんですけども、税金がないと我々は仕事ができないんです。例えばごみの収集にしても、ごみは多いのと少ないのとどっちがいいかというたら、ごみは少ないほうがいいです。ごみが少ないほうがやっぱりありがたいんです。ごみが少ないとごみ収集する人の数を減らすことができます。ごみ収集車の数も減らすことができます。ごみは一般的に燃やしますから、ごみ焼却施設も長持ちすることができます。ごみにかかわる作業のお金は市が皆さんからいただいた税金でやっているわけですから、そういうのを義務的経費ということになります。国自体が1千兆円の借金を抱えているので、これから地方に地方交付税交付金とか国庫支出金という形で地方にお金が回ってくるんですけども仕送りと一緒にです。親元が苦しんでいるんですから、これから地方に回ってくるお金が増えるとはとても考えられない。限られたお財布の中でやっていかないといけないんです。少子高齢化で子どもの数はこれから少なくなるんです。働いてこれから税金を納めてくれる人の数は少なくなるんです。そして、私もそうですけれども、これから高齢化して行って、いろいろとお世話になる人は増えていくわけです。そういう中で何をやらな

いといけないのかというのは、すごく考えながらやっていかないといけない。どれだけの人がそのやった事業に対して、利益を受けるのかも厳しく見ていかないと、「モノ」をつくってしまったら将来の世代の人たちが維持管理をしなくちゃいけない。市役所が「モノ」をつくったら、「調子が悪かったけん、やめます。はい、やめました。」とはできないんですよ。これが公の難しいところですけど、何かつくってしまったら、永遠に維持管理をしないといけないのが行政の仕事です。一般的な話をさせていただきました。今、言われたことというのではなくて、ここまでの流れを見ていて言わなければいけないなと思ったんですが、限られたお財布の中でやっていかないといけないので、申しわけないですけど、政治家って耳当たりのいいことばかり言っていた人がいるかもしれませんけれども、もう耳当たりのいいことだけは言えない時代になってきてしまいました。できるだけ頑張りますけれども、新たな林道をつくる、広域農道をつくるのは一般的に言わせていただきますけれども、難しい状況になってきたのが現状であります。皆さんからの声をいただきながら、何をすべきかということで、この林道は必要ですとやっている事業もあります。広域農道もやっているところもあるんですけども、松山市は中ではいい財政と言われているんですが、なかなか厳しくなってきたという状況にあります。

【都市ブランド戦略課長】 産業経済部都市ブランド戦略課の矢野でございます。ご質問ありがとうございます。高縄山麓線につきましては、確かに事業化に向けて取り組んでいた時期があったわけでございますけれども、地元負担金の問題とか北条森林組合の経営悪化などにもないまして解散をしたりということで、事業化に向けた作業が中断した状況でございます。こうした地元負担金の問題とか森林組合が事業の申請者となっていたために、森林組合へまず加入していただくとか、そういった事柄が必要になってまいりますので、まずは地元でこの林業事業についてやはりこれはどうしても必要だということがあるかどうか、今一度お話し合いをしていただきまして、要望書などを提出いただきましたら、また検討させていただきたいと思えます。それから広域農道については、現在のところ長期計画を定めているんですけど、その中で松山市の旧北条地区で広域農道を整備する予定はございませんので、ご要望については地域でお話し合いをいただいて、またお聞かせいただければと思えます。よろしくお願ひします。

【市長】 大変申し上げにくい回答で申しわけないですけども、今はそのような現状になっております。

【男性】 林道ですけども、なぜこのような期成同盟会を立ち上げましたかといいますと、昭和32年の3月21日に猿川本村から出火した火が

西の風にあおられまして、中村・米之野へと延焼して山林70ヘクタールを焼失したことが過去にあるわけです。当時はまだ林業が盛んでしたから山へ入る道も数多くあったわけでありまして、また地元の方や団員の方が山をよく知っておりましたから、この道を入ったらどこへ抜けるというのがわかっておったわけです。ですから、1人の犠牲者もなく夕刻ころにほぼ鎮圧したわけです。今、ここで火が発生したらどうなるでしょうか。山に入る道は限られております。基盤の整備がされていないとなりますと、いかに立派な資機材で整備してもその機能の発揮はできないじゃないですか。そうすると第2次災害が怖いんです。そういうことから林道を建設して、もしものときの対応に備えていただきたい。そうしないと怖いんですよ、土石流が発生したりしますとね。そういうことでこの基盤の整備をしていただいて、またほかの振興方策等も考えていただきたいと思うわけです。

【市長】 はい、ご意見ありがとうございました。林業の産業振興のことと防災面と両方の面があるんだというご意見を教えていただきました。持ち帰らせていただいて、よく検討をさせていただいたらと思います。ご意見ありがとうございました。

【女性】 立岩地区の才之原から参りました。よろしくお願ひいたします。私が松山市にお願いしたいのは、北条地区に児童館が1つもない状態なので、ぜひ北条地区に児童館をつくっていただきたいです。私が10年前に福岡から松山に引っ越してきたのですが、そのころは子どもも小さくて、そういった児童館が近くになく、知り合いもおらず、新しい友達もできることも少ないような状態でした。福岡にいたときは児童館が近所にあるのが当たり前だったので、とても不思議なところに引っ越してきた感じがしました。現在、松山市には愛媛県の施設も含めて8カ所の児童館があります。一般的に児童館は小学生以下の子どもととらえがちですが、児童福祉法では0歳から18歳未満と定められています。なぜ、北条地区に児童館が必要なのかというと、北条地区、とりわけ立岩小・正岡小・難波小・浅海小・北条小学校の児童たちは中学生になると北条北中学校の1カ所に通うようになります。北条小学校以外は1クラス20名以下の児童になっています。現在の立岩小学校の5年生では8人クラスになっています。少人数のクラスのため中学に上がったとき、急に大勢の中に入った場合にとまどってしまう子ども中っていると聞いています。児童館ではほかの地域の子ども同士で遊びを通じ交流できる環境ができます。少人数の中で生活している子どもたちにとっては、とりわけとてもよい経験ができます。児童館は子どもたちに季節ごとのイベントや運動が苦手な子どもたちへの鉄棒や

マット運動、跳び箱の指導の教室もあり、グラウンドではボール遊び・自転車・野球などもできます。松山市の古川北にあります南部児童センターでは夜の9時まで高校生が利用できます。北条地区には県立高校が1校ありますが、現在、今年の入試では定員を割っていたと聞いています。ぜひ、北条駅の周辺で南部児童センターのような幼児から高校までの幅広く利用できる施設をつくっていただき、北条地区の活性化や将来を担う子どもたちの交流の場をつくっていただきたいと思います。いかがでしょうか。

【市長】 児童館は先ほど県の施設を含めて言っていただきましたけれども、松山市だけとなると7つの児童館があります。これは41地区の全部に児童館が設けることができたらいいんですけれども、そうはいかないので東西南北で拠点を決めて、児童館が周辺の地区を担当するというところで7つをつくらせていただいております。これまでのタウンミーティングで申しあげましたように、あと1カ所の整備を計画しております。これまである児童館からの距離を考えますと、北条地域は有力な候補地の1つとしてとらえています。今、北条地区の各地区からまとまった要望が市役所に寄せられています。この件に関しましては、北条地域の皆さんの思いと行政の考えをすりあわせる場をできるだけ早い時期に開きたいと考えていまして、担当部局に準備を急がせているところです。いずれにしても、できるだけ早く対応して、皆さんのご意見にしっかりと耳を傾けていきたいと考えていますので、ご協力のほどよろしく願いいたします。まとめて申しあげると北条地域は有力な候補地の1つであると、今できるだけ早くするように担当部局に急がせているところですので、もうしばらくお待ちいただけたらと思います。

【女性】 私は貫之橋から100メートル下に下りたところに住んでおります。子どもが2人いるのですが、ガードレール側を歩いて登下校をしているのが現状です。中には速度を落とさず、上り下り関係なく車が通り過ぎていきます。家から歩道側に渡るのは危ないし、また100メートル上がったところで歩道側から橋に渡らすのも速度を落とすしてくれない車もいて危ないので、歩行者注意の看板かガードレールか白線に色をつけていただきたいと思います。

【都市政策課長】 都市政策課でございます。道路の安全についてご提案いただきましてありがとうございます。今の話だけでは場所を把握できませんので、地図も用意しておりますので、この後に場所を教えてください、言われたように色んな方法があると思いますので、またご相談させていただきます。

【市長】 我々、3時半ですぐ帰るわけではないので、地図も持ってきて

おりますので、ここの道路が危ないということを含めて遠慮なく言っていたらと思います。ちょっと先ほどの補足ですが、中1ギャップというのが確かにあるんですね。小学校6年生から中学1年になるときに、今まで一緒に小学校だった子がそのまま中学校に上がったらいいんですけども、色々な学校が集まってくる。例えば、松山市中心部の例でいいますと東雲小学校・番町小学校・八坂小学校は松山の東中学校に集まってきます。今までのグループと違ってくるので、中1ギャップはどこの中学校でもあるんですね。松山市としてもこれは気をつけないといけないという問題として認識しております、立岩小学校も交流ができるように交通機関の補助をやり出したものがあります。例えば立岩小学校だけで活動するだけでなく、市内の器楽の大会とかに行くときに、色々な交通手段が利用でき補助を受けると移動しやすくなりますよね。子どもたちが立岩だけで学ぶのではなくて、色々な機会で学べるように交通費の補助も出すようにしました。中1ギャップは市役所としても認識しておりますので、そういうギャップがおきないようにできるだけこれからも心がけてまいりたいと思います。

【男性】 高縄山の件で申したいと思います。高縄山は河野家ですかね、湯築城の跡と大変深い縁があると思いますが、高縄山はご存じのように年に3回お祭りをしております。有志が集まって30年ぐらい前から宝山会というのを立ち上げてみんなで高縄山を盛り上げております。その中で、最近が高齢の方も結構高縄山に登ってこられたり、あとは中学生が高縄登山を経験したり、市内の小学生も上がったりしております。その中でトイレの補修ですが、今は汲み取りで和便器が3つです。小便器も一緒になった状態で使われています。高齢者も結構多いので、トイレの水洗も含めた整備をお願いできたらありがたいかなと思います。どうぞよろしくお願います。

【市長】 私、ご存じのように実家が河野地区ですので以前から高縄山にはよく登っているほうだと思います。また、子どもが遠足で高縄山に登ったときに事前にトイレに行っておきなさいという話があって、現状はよく知っているところでございます。高縄山の上には高縄寺があって頂上付近のトイレはあそこを思い浮かべている方が多いと思いますが、高縄寺のトイレを使わせていただいている現状があります。高縄山にトイレをつくるのを検討しているんですが、難しいのは今は水洗トイレになりますよね。水洗でやろうと思うと水脈の関係と処理した水をどうするかが悩ましいところなんです。やり方はいろいろあるんですけども、そういうハードルがあるものですから、高縄山にトイレをつくらうと思うと高いお金がかかっ

ちゃうんです。そこで、高縄山の現状はどうなっているのかというと、県のトイレがあるんです。県がつくった建物があって立派なトイレがあるんです。子どもたちは遠足で歩いて上がってくるケースもあるんですが、ほとんどの方は車で高縄山に上がってこられます。歩いて上がってこられるよりも、車で上がってこられるので、車で上がってきた駐車場の看板に「近くにきれいなトイレがあります」という看板を設置させていただいて、まずはそこでトイレに行ってください、きれいなトイレがありますからということで対応させていただいているところです。まずは、そういう形をとらせていただいて、絶対トイレは作りませんという話ではないんですけども、まずは県がつくったトイレがありますので、そこを利用してもらえないですかと。歩いて何百メートルも移動するのは大変ですけども、車で上がってくる方がほとんどなので、ここにトイレがありますよという誘導する看板をつくらせていただいて、そこでまずはご使用いただけませんかということで対応させていただいております。絶対にトイレは作りませんという話ではないので、ちょっと今様子を見させていただいている、課題として水脈の問題と処理した水をどうするのかという課題があるので、なかなかそういう課題があるんだということをご紹介させていただきました。

【小学生】 立岩小学校6年です。前のタウンミーティングのときに風早88カ所のスタンプを新しくさせていただいてありがとうございます。立岩小学校はスポーツ少年団16人で頑張っています。バレーボールのボールが古くて重たいので、準備に時間がかかります。学校の設備ではないそうなので、タウンミーティングで軽いものに換えてもらおうと思って提案させてもらいました。

【生涯学習政策課長】 ご質問ありがとうございます。風早ふるさとめぐりは皆さん行かれましたか。また、ぜひとも行ってくださいね。体育館のバレーボールの支柱という話をいただきました。学校内は色んな備品を使われております。バレーボールであったりソフトボールであったりあるかと思えます。学校から教育委員会に先生から要望書を出してもらった中で購入の検討もできようかと思えますので、一度、学校の校長先生にご相談していただいて、バレーボールの支柱が老朽化によって直すことができるのか、新しい新品を買うのかは、その物を見させてもらわないといけないんですけども、学校の先生へお願いしてみてください。お願いします。ありがとうございました。

【男性】 県の管理河川で申しわけないんですけど、水の生き物を阻害するような高い堰堤がいくつもあるんです。建設当初の目的は達成されたん

でしょうけど、今から見てみますと、やはり水の生き物の溯上を阻害しているように思いますので、やはり水の生き物に優しいような堰堤、水の生き物が溯上できるようにしていただきたいと思います。そして将来この立岩の河川でも童らが多くの水の生き物と憩える環境をつくっていただきたいと思います。お願いします。

【市長】 はい、わかりました。よろしかったら、帰りに地図で教えていただけますでしょうか。皆さん、例えば国道196号とかおわかりになると思いますけども、市道であっても、県道であっても、国の道であっても我々から言いますので、それは県ですから県に言ってくださいとか、それは国ですから国に言ってくださいという話ではなくて、我々から中継ぎしますし、両方でいくのが1番いいかと思うんですが、我々から例えば県や国につなぐ、そして皆さんから直接に言っていただくと、「いや、そんな大きい話を言よんじゃないんじゃがね。ここをこうしてもろたらいいだけじゃがね」というケースがありますので、やっぱり直接言うと伝わりやすいです。市が一番身近な行政体ですので、遠慮なく言っていただいたらと思います。

【男性】 区長です、よろしくお願いたします。先ほどから立岩地区の過疎化あるいは少子高齢化といった問題がたくさん出ておりますけれども、先月のマスコミの報道によりますと、愛媛県の人口が140万人を割るそうだと出ておりました。立岩地区でも少子高齢化あるいは過疎化、人口減少のスピードがものすごく上がっていると思います。ところで、以前は学校を卒業しますと、就職は市外だとか県外、立岩から出る人も結構おりました。しかしながら、年をとって定年にでもなれば立岩に帰って、豊かな自然と古きよき伝統のあるふるさとで生活したいと考えている人が多かったと思うんですが、現在は高齢者ほど生活に便利な都会で生活したいという考えをお持ちの方が増えたんじゃないかと思っております。食料品とか生活用品、日用品が手近で購入できて、病院が近くにある、あるいは交通の便がいい都会へと出ていく人が高齢者の中に非常に増えてきたんじゃないかと思っております。立岩地区では人口減少にともないまして空き家がたくさん増えております。南海トラフ巨大地震がいつ起きるか心配されている現在ですけれども、この空き家への対策について市長さんのお話をお聞かせ願ったらと思います。よろしくお願いします。

【市長】 わかりました。空き家のことについては、安居島に行かせていただいたときに、安居島は結構古くなっているお家が多いんです。改めて見させていただいて、今、庁内に空き家対策で抜本的やっけていくと指示を出しております、市役所の中に空き家対策のさまざまな方策を考える作

業部会ができていて、空き家対策の条例をつくるべく動いているところです。

【都市政策課長】 都市政策課でございます。空き家対策のご意見いただきましてありがとうございます。ご存じのとおり少子高齢化は全国的な問題でございます。国でもいろいろと対策を講じる必要があるということで動きがあります。松山市においても、いろいろな動きをしているところでございまして、今、市長が言いましたように、空き家対策の検討会を庁内で行ってございます。もう1つは、色んな有効な対策を行うための「空き家の適正化管理条例」の制定に向けて、いろいろな取り組みをしておりますので、よろしく願いをいたします。

【市長】 小学生もわかりやすいように。空き家わかる？人が住まなくなったお家。壊れそうになって例えば道に瓦とか落ちてきたら危ないでしょ。そこで危なくないように松山市はしたいんですけど、個人が持っているお家なんよね。松山市役所が持っている建物だったら簡単にできるんやけど、個人が持っているものを何でみんなの税金でやっている松山市役所が直すんですかというお話になっちゃう。市内全域に空き家がいっぱいあったら、「こっちでやったんなら、こっちのお家もやってくださいよ」と市内全体に広がる話になっちゃう。だから決まりをつくらないといけませんね。そういうことで、今、空き家対策でどういうことができるかを一生懸命に考えているところです。どこの市もそうですけど、市役所が持っているものだったらいいけど、個人が持っているものはどうしますかというのをいろいろ考えて難しいところを超えようとやっているところです。先ほど言われた治水のことについて、言い漏らしましたので補足をさせていただきますが、だいぶ護岸は変わってきたかなと思います。重信川の松原泉というところが憩の園になっているんですが、そこを国土交通省が表彰しました。メダカとかフナとかが戻ってきている自然に優しい整備をしたところです。国土交通省が表彰しているんです。私も3方張りの整備は嫌で、場所にはよるけれども、できるだけ生き物に優しい整備にしましょうと、昨日も市役所の中で話をしたところです。できるだけ子どもたちが自然と触れ合うことが大事だと思います。こういう自然に優しい方法を常に考えていきたいと思いますので、そこは考えが一緒のところだと思います。

【女性】 立岩小学校に勤めております。先日、学校が避難所になるということで、電波の中継局を学校の体育館が避難所になるから設置をするということで来ましたが、電波環境を計ると電波環境はあまりよくないということで、結局設置をされなかった経緯があります。先日、高縄山に遠足で行くので、下見で上がったんですけど、その間ずっとラジオ

も電波が入りません。それから通勤で通ってきましても、立岩に入った途端にラジオも入らなくなるという状況がありますが、今後の立岩地区の電波環境はどのようになっていくのかをお聞かせいただけたらと思います。

【消防局総務課長】 消防局総務課の中矢でございます。ご質問ありがとうございます。電波環境のことでございますけれども、立岩小学校で環境が悪かったということで、今後も引き続き愛媛県の公衆無線LAN推進協議会でさまざまな実験を繰り返しながら、環境整備に努めてまいりたいと考えております。今、松山市は冒頭市長が申しましたように、立岩地区の17カ所にデジタル防災行政無線を整備しております。これは中島の泰ノ山に中継局を持っており、泰ノ山から立岩地区に電波を飛ばして、緊急放送ができる防災行政無線は、どのような状況におきましても電波環境は完全に整えておりますのでどうかご理解いただけたらと思います。

【小学生】 今度高縄山に登る予定になっています。去年ハチが出て、刺されたと聞いたので、ハチの駆除をしてほしいと思っています。

【保健福祉政策課】 保健福祉政策課の西市です。よろしく申し上げます。質問ありがとうございます。ハチの巣の駆除ということですが、高縄山登られたときにハチに刺されたんですか？ハチがたくさんいて怖かった。

【市長】 刺された人がおる？それはいかん。刺された人がおるそうです。

【保健福祉政策課長】 ハチに刺されるとハチの種類によっては大変危険な状態になることもあります。小さなアシナガバチとかミツバチだったらあまり被害はないんですが、ただそのときは隣近所もしくはどなたかに助けを求めることをまずしてください。もし、そのハチの巣が大きなスズメバチといった場合でしたら、近くの大人たちにすぐ助けを求めて、そして救急車で近くの病院に行っていただくことを第1にさせていただきたい行動です。その次にハチの巣を見つけた場合は、必ず小さい子どもさんでそのハチを叩いたり、落としたり、触ったりすることをしないようにして、必ず大人の方にここにハチがいますよと伝えていただいて、その大人の方から専門駆除業者へ情報を提供していただけたらと思います。専門駆除業者は、松山市が直接駆除をしていないものですから、松山市内でしたらペストコントロール協会というところがございます。電話番号が960-1646です。ペストコントロール協会にお願いをすれば駆除をしてくれますので、ご承知おきをいただければと思います。よろしくお願いをいたします。

【男性】 高縄山の登山道から歩く道があるんですけども、子どもたちが言いたいのはハチの巣を見つけたらどうしろということではなくて、登山道をきちんと整備してほしいことではないかと思うんです。昔、北条市時代は小村の集落が市から補助金をもらって整備していたんですけど、毎

年、重機を入れてきちんとハチが出たりしない整備をしていたんですけど、松山市と合併してから補助金が出なくなって、今はほとんど整備されることがないように聞いております。登山道は、よく小学生や市内学校の子どもたちが、利用しますので整備をぜひお願いしたいと思います。

【都市ブランド政策課長】 ご質問ありがとうございます。産業経済部都市ブランド戦略課でございます。おっしゃる登山道ですけれども、林業用の作業道で、松山流域森林組合が管理をさせていただいています。おっしゃるように、ところどころ崩れた土砂とか、木が倒れたりしておりますので、補修などは松山市で30万以上の工事の箇所については対応させていただくことになっていきます。ただし、大変申しわけないんですけれども、松山市の制度としては地元の分担金を頂戴するようになっていまして、5パーセント負担をいただくことになっていきます。ですので、そういったことを踏まえてご要望を森林組合とご相談いただければ、対応させていただきたいと思いますので何卒よろしくお願いします。

【市長】 これは教育でやりましょう。高縄山に上がる遠足は結構ほかの学校でもされていますよね。

【女性】 北条小学校も毎年6年生が登っています。天気がよければ立岩小学校も数年に1度は必ず登りたいと考えています。

【市長】 これはまず2つ思い浮かべながらしゃべりますけれども、2つの面がありまして、まず道路を安全に子どもたちが歩いて登山をすることができるのか、そういう道になっているのか。そして、生き物とかから守られるようになっていくのか。やっぱり子どもの安全は大事でありますから、ハチの巣が沿線に絶対ないようにできるかといったらなかなか難しいんですけれども、できる限り目につくところにハチの巣があるのだったら駆除するとか、それは道の整備、または虫の駆除の両面から、教育の面で子どもたちを守るんだということで対処をさせていただきたいと思います。どういうことができるかはすぐに言えないんですけども、必ず検討させていただきます。最後に私から補足をさせていただいたらと思います。今日、前回の意見を述べさせていただきました。前回、皆さんからこういう意見をいただいて市としてはこう考えていますと述べさせていただいたんですが、これからもキャッチボールだと思っています。一緒にまちづくりをやっていないといけない立場ですから、これからも意見交換を重ねていきたいと思いますので、「市からこういう回答が返ってきたんだけど、私らはこう思うんよ」ということでいいと思うんです。私は皆さんご存じのように一市民からこの立場をいただいた人間です。行政と皆さんとの距離ができてしまうのはとってもよくないことです。行政と皆さんとの距離

をもっと近くしたい思いでこの立場をいただいた人間です。どうせ「松山市に言うたって、何も変わらんよ」じゃなくて、言っていたかかないと変わっていくことはないと思います。やっぱり言っていたかかないと皆さんの意見を把握することができないと思います。ですので、敷居を高くならず、どうぞ遠慮なく言っていただいたらと思います。実は、例えばこういうやり方はできなくても、こういうやり方ならできますよとお伝えすることもできます。同じ山間部でこういうまちづくりをしたところがあるんですが、松山市の五明で今やっているのは、イタドリ、ところによってはタシッポとか、愛媛県の東予に行きますとイタドリを採って漬物にするんです。イタドリを耕作放棄地で育てる。育てるのは知的障がいのある子どもたちが育てます。そういう方々はなかなか働く先がないので、そういうビジネスを考えられたんです。イタドリを耕作放棄地で知的障がいのある方たちがつくり、五明地区は道後地区が近いので、道後の旅館で漬物として出しましょうという仕組みを考えて、「松山市さん、これ援助してや」と持ってこられ、国の補助金をもらえるように我々がサポートさせていただいて、できるようになりました。ですので、「私らこういうのをやりたいんよ」と言うてくれたら、「こういうことができますよ」とサポートするのが我々の仕事だと思いますので、先ほど申し上げたとおり、行政と皆さんの距離ができてしまうのはよくないことですから、どうぞ遠慮なく言っていただいたらと思います。それがこれからのまちづくりに大事なことだと思います。対応の悪い職員がおりましたら、今、松山市には市長へのわがまちメールといいまして、直接のメール制度もあります。そういうことのないように心がけているんですけども、対応が悪いようなことがありましたら遠慮なく言っていただいたらと思います。皆さんと意見交換をしながら、何が今松山市にとって必要なのか、後手にならないよう将来の子どもたちにいい松山を残すためには、どういうことが必要なのかを常に考えながらやっていきたいと思いますので、これからも皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。今日はありがとうございました。

— 了 —